

# 学生の回想データにみる子ども時代のジンクス

川越 ゆり・滝澤 真毅

本論文の目的は、子どものジンクス（縁起かつぎ）についての学生アンケートを分析し、Opie & Opie (1959) 収録の1950年代のイギリスの子どもの事例と比較することで、日本の子どものジンクスの実態の一端を明らかにし、両者に共通に見られる特性を示すことにある。合計368名の短大生、大学生（一部、卒業生を含む）をアンケートの調査対象にしている。

論文の前半では、学生アンケートの結果をもとに、ジンクスをおこなった時期、採集されたジンクスの内容ごとの傾向、ジンクスと性差の関係、ジンクス成立の要因等について報告、考察をしている。後半では、ジンクスの対象や構造の面から、Opie & Opie に挙げられた事例との比較と考察をおこなっている。以上の展開から、平成の日本においても学童期の子どもが多様なジンクスを経験していること、ジンクスの対象や構造面でOpieらの事例と興味深い共通性が見られることをまとめ、子どもとジンクスとの関わりから、国や時代の別を問わない、普遍的な子どものありようを導きだせる可能性を示している。

## 1. はじめに

1950年代のイギリスの子ども文化を紹介したOpie & Opie (1959) の11章には、当時の子どもの間で流行していたさまざまなジンクス（縁起かつぎ）が収録されている。章の冒頭で、著者は1852年にプリマスに在住していたある男性の回想を紹介し、男性の少年時代に流行していた「白馬を見たら3回つばをはき、つばの飛んだ方向に行けば良いことがある」というジンクスの類例が、1950年代の子ども達の間で今なお生き続けていると述べている。また、白馬のジンクスに限らず、学齢期の子どもがさまざまなジンクスにこだわる傾向にあることを、事例を挙げて報告している。

では、Opie & Opie に報告されているような子どもの姿は、特定の国や時代に限られた現象なのだろうか。学際的で興味深いテーマであるにもかかわらず、子どもとジンクスとの関わりについての研究は十分になされてきたとはいえない。本論文の目的は、平成の日本で子ども時代を過ごした学生の回想データを分析し、イギリスの事例

と比較することで、日本の子どものジンクスの実態の一端を明らかにすると同時に、国や時代の別を問わず、子どものジンクスに共通に見られる特性を示すことにある。

## 2. 調査方法

### (1) 調査の対象

山形短期大学（現東北文教大学短期大学部）子ども学科に平成19～21年に入学した学生・卒業生、および東北文教大学子ども教育学科に平成22年に入学した学生、合計368名（女性303名、男性61名、性別不明4名）を調査対象とした。ほとんどの調査対象者の回答時の年齢は18～21歳であったが、40歳、26歳の学生が各1名ずつ含まれていた。

### (2) アンケートの内容

①性別、②ジンクスの内容とそれをおこなっていたおおよその学年（複数事例の回答可）、③出身地、の質問項目について無記名、記述式で回答を求める形式で、アンケートを作成した。

アンケートには「ジンクス」を「縁起かつぎ」として位置づける簡単な説明とともに、筆者の一人（川越）が平成21年に神奈川県在住の小学校5年男児から採集したジンクス（「道にカラスの羽が落ちているのを見ると良くないことが起きる。両手のひたとさし指を合わせて、真ん中を手で切ってもらえば大丈夫」）、自身の小学校時代に経験したジンクス（「学校に着くまでに、赤い車を三台見ると良いことがある」）、Opieらの採集したジンクス（「ぶちのある犬を見たら、指を交差させるとテストで良い点がとれる」「救急車を見たら良くないことが起きる。5分以内に黒い犬を見れば大丈夫」）を例示した。

### (3) アンケート調査の実施と回収

アンケート調査は、平成22年1～4月に、学生・卒業生が集合した場面で一齐にアンケートの配布、記入、回収をおこなう方法で実施した。一部、その集合場面以外の機会に個別的に回答を依頼した対象者もいるが、その場合でもアンケートの配布、記入、回収という一連の手続きはその場ですべておこなった。ジンクスをおこなったことも見聞きしたこともない、記憶にない、という場合には、「なし」と回答するよう指示した。回答者が回答に要した時間は、長い者で15分間程度であった。

368名の調査対象者全員からアンケートを回収し、「ジンクス」の記入欄から1032件（「なし」を含む）の記述が得られた。なお、この際、「四つ葉のクローバーを見つけると良いことがあるが、五つ葉を見つけると悪いことがある」といった、複数の要素を含む記述については、「四つ葉」のジンクスと「五つ葉」のジンクスとに分割して、別のものとして取り扱った。

### (4) 回答内容の分類と符号化

回収した質問紙の記述内容には、筆者らが想定していた縁起かつぎ的な「ジンクス」の他に、さまざまな種類の儀式や迷信的行動、俗信などが含まれていた。そのた

め、分析対象を明確にするためにそれらをいくつかの種別に分類するとともに、集計のための符号化をおこなった。

回答に含まれている個別の事例を、便宜的に次のように分類した。

**ジンクス** 「～すると良いことがある」「～を見たときには…をしなければ悪いことが起きる」といった、比較的純粋な縁起かつぎとして解釈可能なもの。

**しつけ** 「うそ泣きをすると親の死に目に会えない」「食事の後すぐに横になると牛になる」など、おとなによるしつけ的な要素が強いと考えられる俗信など。

**ジンクス・しつけ** 「葬儀を出している家の前では歯を見せない」など、上述するジンクスの要素としつけ的な要素の両方が含まれているもの。

**おまじない** 「消しゴムに好きな人の名前を書いて使い切ると両思いになれる」など、特定の願いを成就するためにおこなう行動について述べているもの。

**動物の殺生** 「カエルを殺すと雨が降る」「朝のクモはお客さんなので殺してはいけない」など、動物を傷つけることについて述べている俗信など。

**観望天気** 「ツバメが地表近くを飛ぶと雨が降る」など天気の子知に関する俗信。

**都市伝説** 「○番目のトイレに花子さんがいる」「二宮金次郎像が背負う薪の数を数えると呪われる」など、学校の怪談、都市伝説などに類するもの。

**分類不能** 「つむじを○回押すと下痢になる」「…ができないと四年生になれない」など、上記分類におさまらない「その他」のもの。

これらのうち、本論文で主として分析、考察の対象とした「ジンクス」の記述は、全件数の66.8%にあたる689件あった。次に多かったのは「おまじない」で、108件(10.5%)であった。

さらに、「ジンクス」に分類されたものについて、それぞれ、次のような要素を抽出して整理した。

- ・それが良いできごとと結びつくもの(ラッキー・ジンクス)なのか、悪いできごとと結びつくもの(アンラッキー・ジンクス)なのか。
- ・そのジンクスが成立するために必要な条件(例:「○回見なければならない」)、あるいはジンクスの成立を阻害する条件(例:「途中で…をしてはいけない」)があるか、あるとすればどのようなものか。
- ・アンラッキー・ジンクスの場合、その悪いできごとを避ける方法があるか、あるとすればどのようなものか。

上記に加え、ジンクスの内容についてキーワードを用いたラベリングを数次にわたりおこなうとともに、そのジンクスをおこなっていた学年を符号化し、それらをもとに数値的な集計処理をおこなった。

### 3. アンケート回答内容の集計結果

#### (1) ジンクス「なし」の回答率

ジンクスをおこなったことも見聞きしたこともない、記憶にない、ということを示す「なし」の回答率は、表1のとおりであった。二項検定を適用すると、女性に比べて、男性の「なし」の比率が有意に高いことがわかる ( $p < .001$ )。

(2) ラッキーとアンラッキー

ジンクスをラッキーなジンクス、アンラッキーなジンクスごとに集計したのが表2である。アンラッキーな事象についてのジンクスの回答数が、ラッキーなジンクスの2倍程度と多数にのぼっている。

表1 男女別回答数とジンクス「なし」回答の比率

	回答数	うち「なし」 回答	「なし」率 (%)
女	303	10	3.3*
男	61	8	13.1*
空白	4	0	0.0
計	368	18	

\*二項検定 p<.001

(3) ジンクスをおこなっていた時期

いつ頃おこなっていたか回答のあったジンクスについて、そのジンクスをおこなっていた時期が、たとえば「小学3年生」という場合には小学校3年生の出現ジンクスとして、「小学5年～中学1年」という場合には小学5年、6年、中学1年の出現ジンクスとして符号化し、得られたすべてのジンクスの学年ごとの出現頻度を集計した結果が図1である。小学校時代を通じて出現頻度が増加していき、小学校5、6年生の時期に最も出現頻度が多くなっていることがわかる。

表2 ジンクスの内訳

	ラッキー	アンラッキー	計
女	226	393	619
男	19	42	61
空白	3	6	9
計	248	441	689

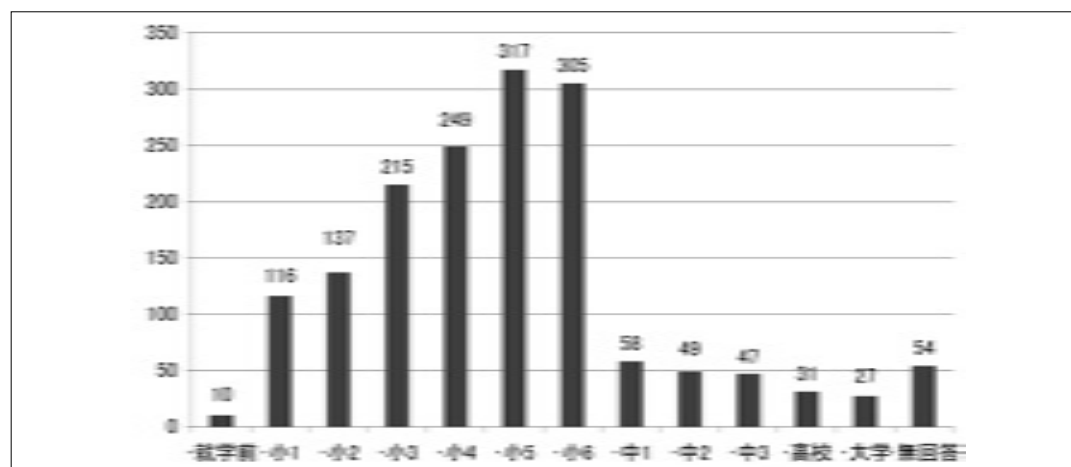


図1 学年別の回答数

(4) ジンクスの内容

① 内容項目の出現頻度

ジンクスで取り上げられている内容の項目に分類ラベルをつけて、そのラベル項目ごとに出現頻度を集計した結果を表3～表5に示した。

表3は、ジンクスの内容がラッキーか、アンラッキーかにかかわらず、どのような内容について取り上げているかを見るために、取り上げられている内容項目の種類ごとに頻度を数え上げたものである。乗用車、トラック、霊柩車など、自動車車両について言及しているもの

表3 ジンクスの内容の出現頻度上位10項目

順位	内容項目	回答数
1	車	248
2	動物	142
3	カラスの羽	82
4	葬式	62
5	植物	39
6	道	21
7	食物	15
8	墓	10
9	新しいもの	6
10	毛髪	5

がかなり多く、次いで猫、カラス、ヘビなどの動物、道に落ちているカラスの羽、葬儀、四つ葉のクローバーなどの植物、マンホールや横断歩道など路上のものなどについてのジンクスが続く。

これらをさらに、ラッキーとアンラッキーとに分けてみると、それぞれの内容項目に特有の偏りが見られる。ラッキー・ジンクスについて集計した表4では、自動車についてのジンクスが圧倒的に多数であり、それ以外は相対的にかなり少ないことが見て取れる。一方、表5に見るように、アンラッキー・ジンクスは、動物、自動車、カラスの羽、葬式といった複数の項目にわたって多数の回答が見られる。

以下、比較的多数の回答が得られた内容項目について、その概要を見ていくこととする。

## ② 自動車のジンクス

多数見られた自動車のジンクスの内訳を、表6に示した。項目別に見ると霊柩車のジンクスがもっとも多いが、佐川急便、赤帽、第一貨物、郵便車、ヤマト運輸といった運送業のトラック車両について言及しているジンクスを合計すると、全体の4割以上を占めて最も多数である。

その中でもとくに多かった佐川急便のジンクスについて、さらに細目に分類したのが表7である。ほとんどのジンクスが、車体に描かれていた飛脚のマークに触るというものであり、走行中のトラックの飛脚の絵に触るというものも全体の四分の一程度ある。

表4 ラッキー・ジンクスの内容の出現頻度上位10項目

順位	内容項目	回答数
1	車	156
2	植物	22
3	食物	15
4	動物	14
5	道	8
6	カラスの羽	2
6	毛髪	2
6	くしゃみ	2
6	天気	2
6	蛇の抜け殻	2
6	飛行機	2
6	飛行機雲	2

表5 アンラッキー・ジンクスの内容の出現頻度上位10項目

順位	内容項目	回答数
1	動物	128
2	車	92
3	カラスの羽	80
4	葬式	61
5	植物	17
6	道	13
7	墓	10
8	新しいもの	5
9	雷とへそ	4
10	毛髪	3
10	靴	3
10	受験	3
10	くし	3

表6 自動車のジンクス

	ラッキー	アンラッキー	計
霊柩車	4	53	57
車体の色	33	9	42
佐川急便	39	1	40
赤帽	21	4	25
ナンバーの色	19	5	24
第一貨物	18	3	21
郵便車	10	1	11
救急車	0	9	9
ヤマト運輸	3	3	6
タクシー	2	1	3
バス	2	1	3
トラック	1	1	2
バキュームカー	1	1	2
車種	1	0	1
宅急便	1	0	1
霊柩車・消防車	1	0	1
計	156	92	248

表7 佐川急便のトラックに関するジンクス

	ラッキー	アンラッキー	計
飛脚に触る	26	0	26
飛脚に触る (走行中)	9	0	9
3台見る	2	0	2
運転手に触る	2	0	2
運転手にカン チョーする	0	1	1
計	39	1	40

自動車のジंकスには、車体やナンバープレートの色についてのもが多かった。その中で取り上げられている車体色は、圧倒的に黄色が多い(表8)。また、黄色い車をラッキー(まれにアンラッキー)に結びつける方法の過半は、「3台見る」というものであった(表9)。ナンバープレートの色ジंकスでは、赤帽、郵便車などの業務用軽自動車に取りつけられている黒地に黄色い文字のナンバーを対象とするものが最も多く、次いで、自家用軽自動車の黄色地に黒い文字のナンバープレートについてのもが続く(表10)。トラック、バス、タクシーなどの緑地に白文字のナンバープレートについてのももあったが、最も一般的な普通自家用乗用車の白地に緑文字のナンバープレートを対象としたものは一つもなかった。

表8 車体の色のジंकス

	ラッキー	アンラッキー	計
黄色	28	3	31
紫色	0	1	1
青色	0	1	1
赤色	5	3	8
緑色	0	1	1
計	33	9	42

表9 黄色い車のジंकス

	ラッキー	アンラッキー	計
3台見る*	19	2	21
3台見て手をたたくとお金がたまる	1	0	1
1台見る	3	0	3
2台見る	1	0	1
5台見る	0	1	1
「スーパーキイロ」と3回唱える	2	0	2
「スーパーキイロ」と唱える	1	0	1
ポケットを3回たたくとお金がたまる	1	0	1
計	28	3	31

表10 自動車のナンバープレートの色のジंकス

	ラッキー	アンラッキー	計
黒地	10	1	11
黄地	7	0	7
緑地	2	3	5
不明	0	1	1
計	19	5	24

\*ラッキー・ジंकスに、途中で青い車を見ると無効化されるというもの2件、3台見て手をたたく(途中で赤い車を見ると無効)というもの1件を含む。

### ③ 霊柩車・救急車・葬式のジंकス

自動車のジंकスの多くはラッキー・ジंकスであったが、霊柩車のジंकスは、ほとんどがアンラッキー・ジंकスであった。また、その不運なできごとを避けるための親指隠しのしぐさを伴っていた(表11)。同様のしぐさが、救急車のジंकス、葬儀を出している家の前を通るときのジंकスと共通していたため、なぜ親指を隠すのか、その理由について、

表11 霊柩車のジंकス

	ラッキー	アンラッキー	計
親指を隠す*	0	53	53
見るとよいことがある**	4	0	4
計	4	53	57

\*「親指の爪を隠す」1件を含む。  
\*\*「3台見るといいことがある」「見ると長生きできる」各1件を含む。

それぞれのジンクスの種類ごとに整理してみたのが表12である。親指を隠す理由にまったく触れずにはただ「隠さなければならぬ」とするものが三分の一あった一方で、親、親族、自分の死と結びついた不運、不幸を避けるために親指を隠すと述べているものが過半数であった。

表12 親指を隠さないとうなるか

	霊柩車	救急車	葬式	計
記述なし*	16	1	25	42
(親が)死ぬ・不幸がある・早死にする	15	4	15	34
親族・身内に不幸がある	1	0	1	2
(自分が)早死にする・親より早く死ぬ	3	1	2	6
天国で親に会えない	0	0	1	1
親の死に目に会えない**	10	1	9	20
霊が乗り移る・霊がくる	1	0	2	3
魂が抜かれる・連れていかれる	0	0	2	2
悪いことがある	6	1	5	12
計	52	8	62	122

\*救急車のジンクスで「親指を出す」としているものは除いている。

\*\*葬式のジンクスで「親の死に目に会えないか、親が早死にする」を含む。

#### ④ 動物のジンクス

動物に関連したジンクスで最も多かったのは猫に関するものであった。次いでカラスに関するもの、道端で見かける動物の死体に関するもの、と続く(表13)。これらはいずれも、大半がアンラッキー・ジンクスであることが特徴的である。

猫のジンクスは、全体の96%以上が黒猫についてのものであり、とくに、黒猫を見る、黒猫が前を通るという事象とよくないできごとを結びつけているものが多かった。黒猫のアンラッキー・ジンクスには、それによって生じるとされる悪いできごとを取り消す方法について触れているものも若干あり、その中で最も多かったのは後ろに何歩か歩くというものであった(表14)。

カラスの群れを見る、カラスの鳴き声を聞く、といった現象に関するカラスのジンクスは24件あった。すべてアンラッキーなものとしてされていて、なおかつ、その不運を取り消す方法について述べたものはなかった。

道端で見かける動物の死体についてのジンクスは17件で、死体を見てかわいそうと思うとよくない(10件)、死体を見るとよくない(6件)、死体を指さすとよくない(1件)という内訳であった。このアンラッキーを回避する方法に言及しているものでは、エンガチョをするという記述が3件

表13 動物のジンクス

	ラッキー	アンラッキー	計
猫	5	77	82
カラス	0	24	24
死体	0	17	17
へび	4	5	9
鳥	2	1	3
鳥の羽	1	1	2
カエル	0	1	1
トンボ	0	1	1
犬	1	0	1
蝶	1	0	1
毛虫	0	1	1
計	14	128	142

表14 黒猫のアンラッキー・ジンクスの取り消し方法

取り消し方法なし	57
後ろに下がる	13
エンガチョ	2
白猫を見る	1
赤いものを見つける	1
人に話す	1
黒猫のフンを見つける	1

あったほかは、念仏を唱える、親指を隠す、家に帰るまで振り向かない、小指を噛む、というものがそれぞれ1件ずつあった。

⑤ カラスの羽のジンクス

道端に落ちているカラスの羽についてのジンクスは、ほとんどすべてがアンラッキー・ジンクスであった(表15)。また、大半が、羽が落ちているのを見るだけでよくないことがあると述べていた。アンラッキーを取り消す何らかの方法について言及しているものが多数であり、最も多いのは「エンガチョ」であった(表16)。「エンガチョ」以外では、数は少ないものの、後ろ歩きや、「ごめんなさい」と言う、などの取り消し方法があった。表中の「指ちょんば」は通常、指を切断することを表す隠語であるが、この場合何をさしているのかは不明である。

表15 カラスの羽のジンクス

	ラッキー	アンラッキー	計
見る	0	61	61
触る	0	10	10
踏む	1	4	5
拾う	1	4	5
拾う・踏む	0	1	1
計	2	80	82

表16 カラスの羽のアンラッキー・ジンクスの取り消し方法

	見る	拾う	拾う・踏む	触る	踏む	計
取り消し方法なし	8	3	1	8	1	21
取り消し方法あり(内訳)						
エンガチョ*	0	0	0	0	0	59
ごめんなさいをいう	47	1	0	1	0	49
羽を10回踏む	1	0	0	0	0	1
後ろ歩き**	0	0	0	0	1	1
指ちょんば・指をたたく・小指を噛む	3	0	0	0	1	4
背中を叩く	1	0	0	1	1	3
	1	0	0	0	0	1
計	61	4	1	10	4	80

\*後ろ歩きをしてからエンガチョをするという回答、一人でエンガチョができないときに指で頬をなぞるという回答各1件を含む。

\*\*後ろ歩きをして「ごめんなさい」を言うという回答1件を含む。

⑥ 植物のジンクス

植物についてのジンクスは、そのほとんどがクローバー(シロツメクサ)についてのものであった(表17)。「貧乏草」はハルジオンのことであるが、「ヘビの葉っぱ」が何をさしているのかは確認できていない。表18にはクローバーのジンクスの内容を分類して示した。四つ葉のクローバーについてのラッキー・ジンクス

表17 植物のジンクス

	ラッキー	アンラッキー	計
クローバー	18	14	32
桜	3	0	3
貧乏草	0	2	2
タンポポ	1	0	1
ヘビの葉っぱ	0	1	1
計	22	17	39

スをもっとも多い。だが、この調査で得られた資料では、四つ葉のジンクスと五つ葉、



六つ葉のジンクスを並列して 表18 クローバーのジンクス

	ラッキー	アンラッキー	計
四つ葉を見つける	18	0	18
四つ葉を人に見せる	0	1	1
五つ葉、六つ葉を見つける	0	13	13
計	18	14	32

⑦ 路上のものについてのジンクス

子どもが道路を通行していて出会うものにはいろいろあり、そのうちのいくつか——自動車や動物、カラスの羽など——についてはすでに紹介した。ここでは、それ以外の路上のものについてのジンクスをまとめて見ていくことにする。

路上のものについてのジンクスについて表19に示した。比較的多いのはマンホールを踏むことについてのアンラッキー・ジンクスと、横断歩道を白い部分だけ踏んで渡ることについてのラッキー・ジンクスである。マンホールのジンクスの内訳を表20に示す。

表19 路上のものについてのジンクス

	ラッキー	アンラッキー	計
マンホール	0	8	8
横断歩道	5	1	6
トンネル	0	2	2
石	2	0	2
縁石	1	0	1
下水道	0	1	1
こぼれた灯油	0	1	1
計	8	13	21

表20 マンホールのジンクス

失恋する*	4
悪いことがある**	2
呪いがかかる	1
何か出てくる	1
計	8
* 1回踏むと片思いだが2回踏めば両思いになれるという回答1件を含む。	
** 背中を2回たたくと取り消しできるという回答1件を含む。	

4. 学生が子ども時代におこなっていたジンクスについての考察

(1) ジンクス「なし」回答の性差

前節で示したように、学生の大多数は何らかのジンクスについて回答していたが、ジンクスをおこなったことも見たこともない、あるいは記憶にない、という「なし」回答の比率は、男子学生においては女子学生よりも有意に高かった。

アンケート調査を実施した際の筆者らの印象では、比較的短時間のうちに「ない」「思い出せない」と想起をあきらめかけたあとで「思い出した」と回答を始める学生が、女子学生よりは男子学生に多く見られた。つまり、「なし」回答比率の性差については、記憶の想起にかける時間の性差が影響を与えている可能性を否定することができない。

しかし、安斎（1990）、Leonard（1989）は、それぞれ、オカルト的信念や迷信深さが、その強度や持続期間において男性よりも女性に強く見られる傾向があると解釈できるデータを紹介している。本研究のアンケート結果で見られたジンクス「なし」回答の男女差が、これらの先行研究で示されている男女差と共通の背景を持つものであ

る可能性は十分にある。

## (2) ジンクス成立の要因

学生の回想データを分析すると、ジンクスの対象に選ばれやすいものは「ひと目でわかるような特徴」を備えていることがわかる。原色の自動車や赤い車体の郵便車、宅配トラックのマーク、宮型霊柩車などがその典型だろう。

宅配トラックのジンクスで最多を占めた佐川急便は、創業50周年に当たる2007年に車体デザインを一新し、マークを飛脚からドライバーに変更した。飛脚の赤いふんどし姿が車体に大きく描かれた旧マークに比べ、新マークは洗練さが増した反面、色や大きさ共に目立たなくなっており、子どもに訴えるキャラクターとしては明らかにインパクトに欠ける。現在の小学生の間で、佐川急便のジンクスがどれほどの頻度で流通しているのか、興味の湧くところである。同様のことは、葬式の形態が多様化するにつれて目立つ外見が敬遠され、バス型や洋型霊柩車に取って代わられつつある宮型霊柩車についてもいえるだろう。

また、ある程度の「稀少性の高さ」もジンクス成立の要因として挙げられる。自家用車のジンクスで多数を占めた色は黄色だった。川村（2006）の紹介する自動車の色に関する統計情報データによれば、イエロー系の車体色は、1982年頃に約20%程度のシェアを占めていた。しかし、その後急速にシェアを落として、1980年代中盤以降は多くても数%程度にとどまり、車体色の中では相対的に最も少ない色種になった。その一方で、1990年代以降は無彩色が台頭するようになり、2000年頃には白とシルバーのシェアが合わせて約77%に達した。

新車の車体色の傾向が街で見かける自動車に反映されるまでには数年の時間差があると想像できる。また、都市部と農村部では多少の差異があるだろう。しかし、本研究で対象とした学生達が小学生だった頃、身近で見かける乗用車の大半が無彩色であり、黄色い自動車は非常に珍しいものであったことはほぼ間違いない。このことは、黄色い車のジンクスにおいては「稀少性の高いものを見つけた＝幸運である」という単純な認知過程が大きな役割を果たしていることを示唆している。

同様のことは、事業用軽自動車（赤帽車、郵便車）の黒地に黄文字のナンバープレートのジンクスについてもいえるだろう。自動車全体の中で軽自動車が比較的少数派であること、さらに、緑地に白文字のナンバープレートをつけたトラック、バス、タクシーなどの事業用車両と比べ、事業用軽自動車は相当に少ないことから、黒地に黄文字のナンバープレートを見かける機会はかなり限られていたと想像できる。

また、ジンクス成立の要因として子どもを取り巻く環境も大きく関係している。学生の回想データから得られたジンクスの多くが、子どもが通学路や外遊びの際に出会う、ごく身近でありふれた事象に関連している。稀少性が背景にあると思われる黄色い車や四つ葉のクローバーのジンクスにしても、身近なところに多数の自動車を見かける場所やクローバーがたくさん生えている場所があることが前提となっている。たとえば、前述の佐川急便は1998年に宅配事業に参入し、2000年頃にかけて、クール便、メール便など宅配サービスを拡大していった。つまり、子ども達が身近な生活道路などで佐川急便の車両を見かける機会が増加したのがこの時期である。そして、この時期は、今回調査対象となった学生達が小学生だった時期と重なっている。

(3) 補足

本節の最後に、「ジンクス」についてのみ例を挙げて回答を求めたアンケートの回答内容に、「まじない」が含まれていたことについて、補足的に検討したい。

アンケート調査をおこなったおりに、ある学生から「おまじないなどは『小学五年生』に書いてあったのを見た」との情報提供があった。たしかに、子ども達の中に流布するものに対するマスメディアの影響は無視できないものがある。

そこで、小学館が発行していた学習雑誌「小学五年生」の記事を調べたところ、本研究で調査対象とした学生の多くが小学校高学年に在籍していたと思われる2001年発行の同誌に、風水、おまじないなどの記事（その多くは連載漫画と連動している）が掲載されていたことを確認した。しかし、その周辺の年代の同雑誌や他学年誌、時代をずっと下って2010年に小学館がこの学習雑誌群を休刊するまでの記事を追跡してみたが、全体的には、定番の占い、風水とともにときどき都市伝説などが取り上げられる程度であり、まじないに関する記事は少なかった。

一方、たとえば実業之日本社が1979年から10代の少女向けに発行していた「マイバースデイ」という雑誌は、占い、心理テスト、まじないといった内容ばかりで構成されていた。同誌は2006年に休刊したあと、インターネットサイトとしてコンテンツを提供し続けている。また、子ども向けの「まじない本」は、1987年発行の倉金章介ら著『あんみつ姫マル秘おまじないパック』（講談社）から、2008年発行のマイバースデイ編『マンガでわかる！ ハッピー&スクールおまじない』（実業之日本社）まで、途切れることなく多数発行され続けている。

対照的に、今回の調査では子ども間のジンクスの流通と密に結びついた特定のメディアは見つからなかった。もっとも、「幸運」に関わる点でまじないとジンクスは関係が深い。また、霊柩車のジンクスにおける「親指隠し」が典型だが、アンラッキー・ジンクスの悪いできごとを回避する方法はまじないそのものである。両者の関わりについては今後の検討課題としたい。

## 5. 1950年代のイギリスの子どものジンクスとの比較・考察

つぎに、Opie & Opie に挙げられたイギリスの子どものジンクスと学生の回想データを比較、考察する。

Opie らは、1950年代のイギリスの子どものジンクスのうち、詳細に記録され、広く流布していることが明らかなものとして、「白馬」と「救急車」のジンクスを挙げている。どちらも車に関するジンクスという点で一致しているが（当時は荷車を引くなど、路上に馬の姿がまだ見られた）、学生の回想データにおいて最多を占めたのも自動車のジンクスであった。

本節では、まず、「車、その他の乗りもののジンクス」として白馬や郵便車、自家用車、宅配トラック、ナンバープレートなどにまつわるジンクスを取り上げる。続いて、「霊柩車・救急車のジンクス」「葬式・墓のジンクス」「動物のジンクス」「鳥のジンクス」「路上のジンクス」「路上に落ちているもののジンクス」「木・植物のジンクス その1」「木・植物のジンクス その2」の順に考察していく。なお、イギリスのジンクス事例の後に記された数字は、Opie & Opie の掲載ページを表す。

(1) 車その他の乗りもののジンクス

このカテゴリーに属するジンクスは、数、種類共に豊富であるため、以下の①～⑦を分類基準として検討する。

① 対象を見る

A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie

1. 学校に行く道で白馬を見かけたら、良いことがある。(227)
2. 白黒のぶち馬を見ると良いことが起きる。でも、白と茶のぶち馬を見るとわるいことが起きる。(236)
3. 郵便車を見ると良いことがある (リヴァプール)。わるいことがある (ロートン)。(238)

B. 【学生回想データ】

1. 黄色い車を見ると良いことがおきる。
2. 黒地に黄色の文字のナンバープレートの車を見かけるといいことが起きる。
3. バキュームカーの赤いのを見たら悪いことが起こる。(自分たちで作った)
4. 飛行機をみて願いごとするとかなう。

①は対象を「見る」だけで幸運、不運が決まる、あるいは、願いがかなうという極めて単純な構造をもつジンクス群である。もっとも、Opie & Opie に挙げられたジンクスのうち、この構造をとるものは少ない。同様に、学生回想データにおいても、対象を見るだけの単純形より、何らかの条件や禁令、アンラッキーの取り消し方法を伴うジンクスの方が多い。ラッキー・ジンクスに関していえば、全248例のうち、単純形はわずか46例にすぎない。以下、主だった条件付きのジンクスを見ていく。

② 条件つき：対象を数える

【学生回想データ】

1. 1日で黄色い車を3台見ると、良いことがある。
2. 一日に、郵便局の車を3台見ると良いことがある。
3. 第一貨物のトラックのぞうの絵を偶数回見ると幸せになり、奇数回見ると悪いことが起こる。
4. 赤帽の車を3台走っているのを見たらいいことがあって止まっている車を3台見たら悪いことが起こる。

②は見るだけで幸運、不運が決まる点では①と同じだが、対象が複数であることが条件になっている。「車、その他の乗りもののジンクス」については、このタイプのジンクスが学生回想データに非常に多く見られた。

対象を数えることを条件にする場合、台数は3台が最も多い。とりわけ、1の「黄色い車を3台」はその典型といえる。また、山形市在住の学生回想データの中に「かめちゃんブー（外車）を3台見るとラッキー」という事例があったが、同市で小学校時代を過ごした筆者の一人（川越）の回想によれば、当時、子ども達の間でフォルクスワーゲン社のビートルは「かめちゃんブー」と呼ばれており、通学路で3台見るとアンラッキーというジンクスが流通していた。このことは、20年以上にわたって、ビートルのジンクスがさまざまなヴァリエーションを生み出しながら、その俗称と共に子ども達の間で伝承されていた可能性を示している。

なお、Opie & Opie に②に該当する例はなかったが、「白い犬が3匹一緒にいるのを見ると良いことがある」といった動物や鳥のジンクスに「対象を数える」を条件にするものがあることを考えると、当時の交通事情に拠るところが大きいと思われる (7)(8参照)。

③ 条件つき：対象に触れる

A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie

1. 郵便車を見たら、「1番最初に見つけ!」「2番目に見つけ!」…と見つけた順番に言っていく。停止中であれば、最初に駆け寄った子どもが車体に描かれた王冠のマークに触れ、2番目、3番目、4番目、5番目、6番目がそれに続き、以下の決まり文句に従って、願いをかけることができる。：1番目は願いがかなう。2番目は誰かとキスする。3番目はがっかりすることがある。4番目は手紙が来る。5番目はそれよりもいいことが起きる。6番目はいちばんいいことが起きる。(238)

B. 【学生回想データ】

1. 佐川急便のトラックの絵のふんどしをさわるといいことが起きる。
2. さがわ急便のトラックのひきゃくのふんどしをさわるといいことある。ただし、走っているトラックに限る。
3. 車の赤帽をさわると良いことがおきる。
4. 黒ネコヤマトの宅急便のネコの絵をさわって願いごとを3回唱える。

③は、対象に直接触れることを条件とするジンクス群の例である。

鮮やかな赤の車体に王冠のマークが描かれたイギリスの郵便車は、当時から子ども達の目を引く存在だったのだろう。一方、学生回想データにおいても、郵便車はもちろん、佐川急便やクロネコヤマト、第一貨物、赤帽といったマーク入りの宅配トラックはジンクスの格好の対象にされている。とくに言及の多さから、佐川急便の飛脚のマークは、当時の小学生に大きなインパクトを与えたであろうことが察せられる。佐川急便に関しては、走行中のトラックの飛脚に触るというジンクスが少なからず見られることも特徴的である。この種のおとなに叱られるような危険な行動を含むジンクスは、純粹に子どもの間だけで発生し、伝承されていた可能性が高い。

「対象に触れる」を条件とする他の例としては、イギリスに「水夫服の襟に触れると幸運が訪れる」(239)というジンクス、また、道端に落ちている煙草の空き箱に片足を乗せ、決まり文句を唱えると幸運が訪れるなどのジンクスがある (7参照)。一連のジンクスがすべてラッキータイプであることを考えると、触れるという行為には「幸運にあやかる」という意味が含まれていると解釈できるだろう。

④ 条件つき：呪文や願いごとを唱える

A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie

1. 白馬を見たら靴につばを吐きかけ、「白馬よ白馬、私に幸運を呼んでこい。今日か明日、いいものを拾えるように」と唱えると良いことがある。(227)
2. 白馬を見たらすぐにこう言うんだ。「白馬よ白馬、幸運呼んでこい。私に。あなたに。私が会う人みんなに」(227)

B. 【学生回想データ】

1. 一日の中で黄色の車を見て、ゆびをさして「スーパーきいろ」を3回言えると一日幸せになれる。
2. 赤い郵便車を見たら、見えなくなるまでに「赤い郵便車」と10回言うといいことが

ある。

3. 車のナンバープレートが黒地で黄色い文字の車が走っている間に願いごとを3回言うとかなく。(その車のことをクロッキーと呼んでいた。)

呪文のような決まり文句や願いごとを唱えることを条件とするジンクスも、A、Bに共通して見られる。イギリスの場合は単純な韻文形式をとるものが多く、同様の傾向はこのカテゴリー外のジンクスにも当てはまる。学生回想データでは、対象が視界から消えないうちに呪文や願いごとを3回唱えることを条件に挙げる事例が多かった(③B4参照)。

#### ⑤ 条件つき：しぐさ・動作

##### A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie

1. 白馬を見たらつばをはいて願いをかける。こうすると願いはかなう。(226)
2. 白馬を見たら靴底につばを吐いて地面にこすりつける。そうすれば良いことがある。(227)
3. 郵便車を見たら、木に触ると良いことがある。(238)

##### B. 【学生回想データ】

1. 「赤帽」の配達トラックを見たら、隣の人にタッチすると幸せになる。
2. ひこうきを見つけたら「2回手をたたいて、四角のポーズ(カメラのポーズ)をとる」×3をやるといい。やればやるほどいい。
3. 第一貨物の車にかいてあるぞうのマークを見て、手の平に二重丸を三回書くと良いことが起きる。
4. Akaboの車を見て、ピースすると良いことがおこる。

ジンクスに伴うしぐさや動作については、アンラッキー・ジンクスに特徴的な傾向が認められる。それについては後述することにして、ここではラッキー・ジンクスに見られるしぐさや動作に限定する。Opie&Tatem (1989)によれば、つばを吐くしぐさはイギリスの民間に古くから伝わるもので、不運を避けるためにも幸運を祈るためにも用いられる。手近の木や木製品に触れるしぐさも民間伝承のひとつで、何かを断言した後で逆のことが起こらないようにするために、このしぐさをするという。また、日本の子どもの遊びでいう「たんま(タイム)」にも相当し、鬼ごっこで鬼に捕まえないようにするときにも用いられる。

一方、Bはピースやカメラのポーズなど現代風のしぐさが多い。古くから民間に伝承されてきたしぐさで、学生回想データに顕著に見られた「親指隠し」と「エンガチョ」については後述する。

#### ⑥ 禁令つき：ラッキーの無効化、あるいは逆転

##### A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie

1. 白黒のぶち馬を見たら、右肩越しにつばをはき、目を閉じて願いをかけるとかなく。けれど、尻尾を見てはいけない。(236)
2. 干し草を積んだ荷車を見たら願いごとをするとかなう。ただし、荷車の後ろを見てはいけない。(235)
3. 二両の機関車に引っぱられている列車(貨車でも客車でも)を見たら「二台続くのは幸運のしるし」と言うといいことがある。でも、最後の客車や貨車を見たら、幸運は不運に変わる。(240)

**B. 【学生回想データ】**

1. 赤のクルマを3台連続で見るといいことがおきる。でも、途中で緑色のクルマを見ちゃダメ！！
2. 1日に黄色い車を3台見たらいいことがある。途中で青い車を見たらだめ。
3. 第一貨物のトラックのぞうさんマークを5回見たら良いことがおきる。佐川のトラックを見るとカウントが0になる。
4. 車の黄色いナンバープレートを3つ見ると願い事がかなうが、緑のナンバープレートを見ると効果がなくなる。

ラッキー・ジンクスに「禁令（～してはいけない）」を伴うものを含む点でも、両者は共通している。原則的には幸運をもたらす対象であっても、禁を破れば幸運は取り消され、場合によっては不運に転ずる。

Opie らの事例の中では、対象が何であれ、「後ろ側を見てはいけない」という禁令が目立つ。禁令ではないが、「郵便車の後ろを見るとわるいことが起きる」(238) などのアンラッキー・ジンクスもある。また、「後ろを振り返ってはいけない」という禁令を伴うジンクスもあり、後ろ姿や後ろを見ることを忌事とする民俗的背景がうかがえる。一方、学生回想データにおける禁令も「(途中で) 異なる色やナンバープレートの車を見てはいけない」「異なる種類のトラックを見てはいけない」というように、パターン化される傾向にある。

⑦ アンラッキーの取り消し

**A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie**

1. 女性の運転手は不運のしるしであり、ウェールズとモンマスシャーの子ども達は、女性の運転手を見かけると、犬と会うまで指を交差させるのが常である。(237)

**B. 【学生回想データ】**

1. ゾウがかかれたトラック（第一貨物）を見ると悪いことが起きる。見たら黄色い物を10個見つけなければならない。
2. 車のナンバーの色が緑のものを見たら、黄色のものを3つ見なければ不幸になる。
3. 赤い車とすれちがうと良くないことが起きる。でも、すぐ、どちらかの親指をにぎれば大丈夫。
4. 第一貨物のトラックのぞうさんを見るとわるいことがおこる。でも3匹の動物を見れば大丈夫。

アンラッキーの取り消し方法を伴うジンクスも、A、B共に採集されている。もっとも、このカテゴリーに属するジンクスの多くはラッキーに分類されるため、Aの該当例は上記一例のみだった。4節で、ジンクス成立の要因のひとつに対象の「稀少性の高さ」を挙げたが、自家用車の普及率がそれほど高くなかった当時、女性の運転手は珍しい存在だったことが、このジンクス成立の背景にもあると思われる。なお、「指を交差させる（“crossed fingers”）」は不運を避けるしぐさとしてイギリスの民間に古くから伝承されている。日本にも「斜め十字」と呼ばれる同じしぐさがあるが、今回採集した学生のデータには挙げられていなかった<sup>(1)</sup>。

一方、B 1、2では、周囲に特定の色を探すことがアンラッキーの取り消し方法となっている。Opie らの事例でこれに類するものとしては、橋を渡っているときに列車が通ったら、「緑のものをひとつ見つけて触らないと悪いことが起きる」(233) が

挙げられる。また、アンラッキーの取り消し方法ではないが、「白馬を見たら、辺りを見回し、赤毛の少女を見つければ願いがかなう」(227)というジンクスも、周囲に特定の色を探す点で共通している。いずれにしても、子どもが身のまわりにある原色に敏感に反応し、ジンクスに反映させる点では、イギリスも日本も共通している<sup>(2)</sup>。

(2) 救急車・霊柩車のジンクス

A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie

1. 救急車を見るたびに、四つ足の動物に会うまで服の襟をつかんでいないといけない。(231)
2. 救急車を見たら、犬を見つけるまで服の襟をつかんで、つばを飲みこまないようにしないとけない。さもないと、救急車に乗っている人が死んでしまう。(231)
3. 救急車を見たら自分が病院に行くというしるし。この呪いを解くには、四つ足の動物を見つけなければいけない。(231)

B. 【学生回想データ】

1. 救急車の音が聞こえたら、親ゆびを隠さないと親が早く死ぬ。
2. 救急車の後ろを見ると親が早死にする。でも、両手の親指をかくしたり、救急車の後ろを見ないようにすれば大丈夫。
3. 霊柩車が通り過ぎる時、両手の親指を隠さないと親が早く死ぬ。

数少ない例外をのぞき、A、B共に救急車・霊柩車は不運のしるしである。「イギリス中の子どもは、救急車を見るとすぐに護身用のまじない(“self-protective charm”)を思い浮かべる」(231)とあるように単純形が少なく、「護身用のまじない」、つまり、アンラッキーの取り消し方法を伴うものが多数を占める点でも両者は共通している。

アンラッキーの取り消し方法は、イギリスの場合は「服の襟に触れる」「四つ足の動物を探す」<sup>(3)</sup>、学生回想データでは「親指隠し」に集中する傾向にある。常光(2006)は、親指を隠すしぐさが、死にまつわる場面ばかりでなく、何らかの不安や不吉な予感を誘う場合の厄除けのしぐさとして日本では古くから見られるとした上で、親指が、悪いものが身体に入ってくる、狙われやすい部位とされていたと述べている。また、常光が1995年に大学生を対象におこなった「親指隠し」についてのアンケート結果によれば、8割以上の学生が霊柩車や救急車、葬式を見たときにこのしぐさをすると回答し、その理由の筆頭に「親が早死にする」を挙げている。霊柩車が救急車を圧倒的に上回る点も含め、本研究のデータ結果と一致しており、このジンクスがいかに広範囲に渡って、ヴァリエーションの少ない形で伝承されてきたのかがわかる。霊柩車のジンクスの圧倒的な多さには、死人を運ぶという性質に加え、黒の車体に金色の屋根というひと目でわかる特徴を備えていること、救急車に比べて稀少性が高いことも関係しているだろう。

なお、Opieらの挙げている事例は、アンラッキーの理由が「(病院に入るなど)自分の身に不幸が起きる」が多い点で、「親が早死にする」が顕著に見られた学生回想データとは対照的である。この差異にはイギリスと日本における親子観の違いが反映されているのかもしれない。いずれにせよ、救急車や霊柩車のジンクスは、子どもが「死」に対して抱く恐れや不安と表裏一体になっている。その意味で、前述の「車その他の乗りもののジンクス」がもつある種の“お気楽さ”とは、一線を画しているといえるだろう。



(3) 葬式・墓のジンクス

- A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie
1. ロートンの少女達は、葬列に出会うと列が去るまで指を交差させる。(235)
  2. ヨークシャーの子どもは、葬式を見ると犬と馬を見つけるまで、服の襟をつかんでいる。(235)
- B. 【学生回想データ】
1. 葬式をしている家の前を通る時、親指をかくさないと親の死に目にあえない。
  2. お墓を通るとき親指をかくさないと親が早く死ぬ。

(2)と同様、葬式や墓は総じてアンラッキー・ジンクスの対象である。アンラッキーの取り消し方法も、A、B共に霊柩車、救急車のジンクスと共通している。

(4) 動物のジンクス

- A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie
1. 黒猫を見たら頭から尻尾まで3回なでると良いことがある。(233)
  2. マンチェスター在住の少年によれば、「黒猫が目の前を左から右に横切ったら車がパンクする」。(234)
  3. 通学途中で白猫を見ると、良くないことがある。(234)
  4. 白い犬が3匹一緒にいるのを見ると良いことがある。(234)
- B. 【学生回想データ】
1. 黒ネコが目の前を横切ったらよくないことが起こる。
  2. 黒ネコが道路をよこぎっているのを見ると良くないことがある。すぐに赤いものを三つ見つけると大丈夫。
  3. 黒いネコを見ると悪い事が起きる。でも、その後白いねこを見れば大丈夫。また白いねこを見ると良い事が起きる。

通学路などでよく見かける動物もジンクスの対象になっている。イギリスの場合、幸運、不運は黒猫の行動に左右されることが多く、黒猫が目の前に座っている、あるいは、歩いている場合は幸運のしるしになるが、走り去ったり、目の前を横切ったりすれば不運のしるしになる (Opie&Opie)。一方、学生回想データでは、黒猫は原則的にアンラッキー・ジンクスであり、ラッキー・ジンクスは3例のみであった。「目の前を横切る」「横切った道を通る」など黒猫が横切る行為をアンラッキーとみなす点はイギリスと共通している。また、B 2、3は周囲に特定の色を複数探すことをアンラッキーの解除方法とする点で、前述の「車のナンバーの色が緑のものを見たら、黄色のものを3つ見なければ不幸になる」などのジンクスと構造的に共通している (1) ⑦参照)。

(5) 鳥のジンクス

- A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie
1. カラスを1羽見ると、死や何かしらの不幸が起きる (特に1人で見た場合)。2羽見ると良いことが起きる。(234)
  2. カササギを1羽見ると悲しいことがある。2羽見ると嬉しいことがある。3羽見ると贈り物がもらえる。4羽見ると手紙がくる。5羽見るともつと良いことがある。

(238)

3. 白い鳥を見るとわるいことが起きる。(233)
4. 鳥に糞を落とされたら良いことがある。(233)

**B. 【学生回想データ】**

1. カラスの大群を見たら、その日1日悪いことが起こる。
2. 飛んでいる白鳥を7羽か11羽見るといいことがある。
3. 鉄棒についているとりのふんを触るといいことが起きる。

カラスとカササギのジンクスは「対象を数える」を条件とする点で、学生回想データに多数見られた車のジンクスに類するものである(1)②参照)。カササギのジンクスは古くから伝わる韻文に沿って幸運、不運が決まるが、内容は地域によって大きく異なるという(Opie&Opie)。なお、鳥の糞はA、B共に幸運のしるしであり、イギリスの事例では、馬や犬の糞を踏む行為もラッキー・ジンクスとして報告されている。

(6) 路上のジンクス

**A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie**

1. 敷石のひびや線を踏むと、算数の問題をまちがえる。(241)
2. 敷石のひびや線を踏むと、翌日、階段から転げ落ちる。(241)
3. 石油が地面に流れて虹になっている上を歩くと、算数の問題を間違える。(238)

**B. 【学生回想データ】**

1. 丸いマンホールをふめば失恋する。
2. 横断歩道の、白い所だけを踏んで歩くと、良いことがある。
3. 道路の縁石をとびはねて直線の道路をずっと行けたら1日ラッキーでいれる。
4. 灯油が道路に流れていると虹色になり、それを踏むと悪い夢を見る。

イギリスでも日本でも、子どもは車や動物などの動きを伴う対象のみならず、足元をも注意深く観察している。アスファルトの道を通学したであろう学生の回想データからは、舗道の敷石に代わり、マンホールや横断歩道にまつわるジンクスが採集された。イギリスでは敷石のひびや線を踏む行為は「例外なく不運のしるしとみなされ」(241)るが、マンホールも採集例すべてがアンラッキー・ジンクスである。また、不運の内容が具体的な事柄(「失恋する」)に限定される例が多い点でも、敷石のジンクス(「算数の問題を間違える」「階段から転げ落ちる」)と共通している。なお、Opie & Opieでは、敷石のジンクスがアメリカの子どもの間でも流通していることが報告されている。

(7) 路上に落ちているもののジンクス

**A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie**

1. 道を歩いている時に黒猫の絵のついた煙草の空箱を見つけたら、片足を空き箱にのせて、「黒猫、黒猫、わたしに幸運を運んでこい。そうしなければ、箱を破いてやるぞ」と唱えると良いことがある。(243)
2. 四つ穴のボタンを見つけたら、まもなく良い知らせがある。(243)
3. 黒い鳥の羽を見つけたら、地面につきさすと良いことが起きる。(244)

**B. 【学生回想データ】**

1. カラスの羽をみたら良くないことが起きる。両手のひとさし指を合わせて、真ん中を手で10回切ってもらえば大丈夫。
2. カラスの羽を見たら、両手のなか指とひとさし指で円をつくって、真ん中を手で切ってもらっていた。
3. カラスの羽が落ちているのを見るとよくない事が起きる。目をつむって後ろ向きで12歩歩くと大丈夫。

路上に落ちているものをラッキー・アイテムとみなすジンクスが報告されているAとは対照的に、Bではカラスの羽のアンラッキー・ジンクスが多数採集された。アンケートの一例に挙げたカラスの羽のジンクスが神奈川県在住の小学生男児からの情報であること、また、学生達が小学校上級生だったのが10年程前であることを考えると、このジンクスが広い地域の子ども間で伝承されてきたことはほぼ間違いない。その多くが、アンラッキーの解除方法として「エンガチョ」を伴うのも特徴的である。

常光は、エンガチョが穢れが移るのを避けるしぐさとして子どもの中に広く流布していると述べた上で、いくつかの典型的な型を紹介している。つなげたひとさし指の間を切るタイプはこの中に含まれているが、B2のようなひとさし指となか指の間を切るタイプ、及びその他に挙げられていたタイプ——つないだ小指の間を切る、両手の間をスーパーマーケットのコマーシャルソングを唱えながら切る、ひとさし指で頬を10回なぞる（ひとりエンガチョ）など——は挙げられていない。また、ひとさし指の間を切る典型例にしても、学生回想データからは、10回切る、家族の人数分を切るなど、さまざまな方法が採集された。日本に古くから見られる穢れよけのしぐさが、ヴァリエーションを多々生みだしながら子ども間で伝承され続けているのは、興味深い現象である。

なお、A1の「黒猫の絵のついた煙草の空箱」は、当時ロンドンにあったカレラス社（Carreras Ltd.）のブランドで、パッケージに黒猫のイラストがついている<sup>(4)</sup>。このジンクスは「対象に触れる」「呪文や願いを唱える」の両方を条件とするが、空箱についたイラストに足で触れて幸運にあやかろうとする点で、郵便車や宅配トラックのマークに触れるタイプのジンクスとの間に強い類似性が見られる（(1)③参照）。

(8) 木・植物のジンクス その1.

**A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie**

1. 四つ葉のクローバーを見つけることは、至るところで最高の幸運のしるしとみなされている。(243)

**B. 【学生回想データ】**

1. 4つ葉のクローバー見つけるとラッキー。
2. 四つ葉のクローバーを見つければ幸せで五つ葉や六つ葉は不幸になる。

四つ葉のクローバーは、大人と子どもが共有するラッキー・ジンクスの典型である。クローバーがヨーロッパ原産の帰化植物であることを考えれば、このジンクスがヨーロッパから伝播されたことはほぼ間違いないだろう。大半が見つけるだけでラッキーになる単純形をとる点でも、A、Bは共通している。学生回想データでは、四つ葉のラッキー・ジンクス18例のうち単純形が15例、「人に見せては（話しては）いけない」

という禁令を伴うものが3例だった。なお、四つ葉のラッキー・ジンクスから派生したと思われる、五つ葉、六つ葉のアンラッキー・ジンクスは、Opieらの文献には報告されていない。

(9) 木・植物のジンクス その2

A. 【1950年代のイギリスの子ども達】 Opie&Opie

1. 木から落ちてきた葉を受けとめると願いがかなう。あるいは、その日はついている。(237)

B. 【学生回想データ】

1. 春の桜が木から散ってきた時、地面に落ちる前に拾ったら願いごとがかなう。
2. 桜の花びらを落とさずに10枚キャッチできたら両思いになれる。

ジンクスの中には、いかにも子どもが好んでしそうな遊びが含まれているものがある。これはその典型だろう。子どもが木から舞い落ちる葉や花びらを受けとめて遊ぶ光景は日常的によく見られる。「学校の近くのトンネルを走って10秒で通らないと悪いことが起きる」(学生回想データ)、「橋の上から半ペニー硬貨を列車に投げてうまく乗っかれば良いことがある」(240)なども同様で、どちらが早くトンネルを走り抜けられるかを競ったり、橋の上からコインを落とすとうまく車両に乗るかどうかを試したりすること自体がひとつの遊びとして成り立つ。この種のジンクスは、子ども同士の遊びの中から生じた可能性がある。

6. まとめ

以上、見てきたように、平成の日本で子ども時代を過ごした学生の回想データからも多種多様なジンクスが採集された。また、Opie&Opieの事例との比較から、1950年代のイギリスの子どものジンクスと2000年前後に日本で小学校時代を過ごした学生のジンクスとの間に、共通点が多々見られることもわかった。各種の車や、トラックのマーク、動物や鳥、路上に落ちているものや敷石やマンホールなどがジンクスの対象に選ばれやすい傾向のみならず、さまざまな条件や禁令、不運の取り消し方法を伴うなど、構造においても両者は共通している。

4節で述べたように、ジンクス成立の要因に、対象そのものの特徴や稀少性、そして子どもを取り巻く周囲の環境が関係しているのは確かだろう。しかしながら、同じ環境に置かれ、白馬や郵便車や原色の自動車を目にし、同じ道を歩いている、子どもにも認められるようなジンクスへのこだわりぶりはおとな一般には見られない。その意味で、ジンクス成立の要因において最も重要なのは「子ども自身の目」である。Opieらの事例と学生回想データに共通して読みとれるのは、周囲のあらゆるもの——通りを走る馬や車やトラック、通りを歩く犬や猫、上空を飛ぶ鳥や飛行機、足元の敷石やマンホール、路上に落ちている煙草の空き箱やカラスの羽など——に視線を走らせ、そこに「幸運や不運のしるし」を見いだそうとする子ども自身の視線である。

Opie&Opieと学生回想データに見られた共通性は、国や文化や時代の違いを越えて子どもに当てはまる現象なのだろうか。そうなのであれば、子どもとジンクスとの関

わりから、普遍的、本質的な子どものありようを導きだすことが可能だろう。今回の学生回想データに見られたジンクスは、現在の小学生の間にも流通しているのだろうか。さらに多くの事例を採集し、検討することを今後の課題としたい。

## 注

- (1) 筆者の一人(川越)の回想によれば、前述のビートルのジンクスには、アンラッキーを取り消す方法として「斜め十字」が用いられていた。
- (2) 「スーパーきいろ」「赤い郵便車」などの唱え文句、あるいは「クロッキー」といったナンバープレートの俗称からも、子どもが好んでジンクスに原色を取り入れる傾向がうかがえる ((1) ④参照)。
- (3) Opie&Tatem (1989)によれば、犬や猫が身代わりとなり、人間の病気をもらってくれるという迷信が民間には古くからあった。この場合は、四つ足の動物に人間の不運の肩代わりをさせるという意味を含むのだろう。
- (4) カレラス社以外の煙草の空き箱をラッキー・アイテムとするジンクスも紹介されているが、いずれも黒猫と類似の韻文を唱える条件を伴う。

## 引用・参考文献

- (1) 安齋育郎 『「超能力」を科学する』かもがわ出版、1990年
- (2) Evans, D.W., Milanak, M.E., Medeiros, B., Ross, J.L. “Magical Beliefs and Rituals in Young Children”, *Child Psychiatry and Human Development*, 33(1), 2002, pp.43-58.
- (3) 川村雅徳 「日本のクルマの色彩潮流」 J A M A G A Z I N E 2006年2月号  
日本自動車工業会、2006年、8～14頁、25～26頁
- (4) 加用文男 『忍者にであった子どもたち 遊びの中間形態論』 ミネルヴァ書房、1994年
- (5) Leonald, Henrietta L. “Childhood Rituals and Superstitions : Developmental and Cultural Perspective”, in J.L.Rapoport (Ed.) *Obsessive-compulsive disorder in children and adolescents*, American Psychiatric Press, 1989, pp.289-309.
- (6) Opie, Iona and Opie, Peter. *The Lore and Language of School Children*. OUP, 1959, pp.226-252.
- (7) Opie, Iona and Tatem, Moria, ed. *A Dictionary of Superstitions*. OUP, 1989, p.109, pp.372-373, 449-450. (『英語 迷信・俗信事典』山形和美監訳 大修館書店 1994年)
- (8) 佐川急便株式会社ホームページ <http://www.sagawa-exp.co.jp/> 2011年1月10日閲覧
- (9) 常光徹 『しぐさの民俗学 呪術的世界と心性』 ミネルヴァ書房、2006年、53～60頁、195～197頁